

開講中—経済学部・日経公開講座 日経新聞論説主幹は「小泉改革」を辛口診断

日本経済新聞論説主幹の

岡部直明（写真左）氏が、2月18日、多摩キャンパス3号館3552教室で、「小泉改革と日本経済」と題する講義を行った。これは、経済学部が学部創立100

周年を記念して日本経済新聞社多摩支局と共催する連

続公開講座、「21世紀の経済と私たちの生活」の第3回目。50〜60代の男性を中心に、大教室はほぼ満席。ポスト小泉につながるようなテーマに熱い視線が注がれた。



岡部主幹は、まず、現在の日本経済について「景気は約15年ぶりの好況。アジア経済発展の波に乗り、『第2の発展期』を享受している」と状況を説明したあと、本題の小泉改革については、「全体としては70点。優

良・可でいえば可く、らい」と厳しい評価を下した。

改革路線は評価できる、とする。「官から民へ」のようなフレーズを何度も繰り返し、日本型市場経済へと導く『意識革命』を行ったという意味では評価できる。また、格差拡大の原因も、小泉改革の失敗ではなく、長期不況のツケと高齢化の2点にある」と述べた。一方で、「改革の本身は、道半ば、不十分で相当遅れたといえる」とし、「冷戦後のグローバルな経済改革競争に日本は出遅れた。またデフレ下での改革は難しいが、議論ばかりが盛んで実行力に欠けていた。改革の目玉商品、郵政民営化はもつと早くにやるべきだった。『ポスト郵政』についても改革が必要だ」な

どと指摘した。

さらにポスト小泉の経済政策課題について、「脱デフレ、税財政改革、人口減にどう取り組んでいくかが重要。また、ライブドア事件の教訓として、日本型資本主義には新たなルール作りも必要」などと述べた。人口減にともなう雇用政策の話のなかでは、「最近よくニートだ、フリーターだ」と言うが、決めつけはよくない。寅さんだって考えてみればフリーター。昔から、

寅さんみたいなものは街にいっぱいいた」とユーモラスに語り、「社会と企業は、明るく元気な体育会系の人ばかり好むのでなく、暗めで知的な人も積極的に採用すべきだ」などと注文も。そして、「小泉改革は、インパクトはあったが未完全の内閣に期待したい」と講義を締めくくった。

終了後、「小泉首相の後継者は誰だと思うか？」という質問に対し、岡部主幹は「結局みなさんが決めるこ

経済学部・日本経済新聞多摩支局共催連続公開講座 講座日程

第1回	12月10日	金子貞吉 教授
「いま、日本経済はどう進む」		
第2回	1月14日	林光洋助教授
「エキサイティングな東アジア経済を楽しもう！」		
第3回	2月18日	岡部直明論説主幹
「小泉改革と日本経済」		
第4回	3月11日	田中拓男教授
「他人事ですか？アジアの貧困」		
第5回	4月15日(土)	田中素香教授
「ヨーロッパはどこへ行くのか」		
第6回	5月20日(土)	内田孟男教授
「国連とミレニアム開発目標」		
第7回	6月17日(土)	井村進哉教授
「郵政民営化と郵便貯金の行方」		
第8回	7月8日(土)	石川利治教授
「空間経済学に基づく地域政策」		
第9回	8月5日(土)	古郡頼子教授
「働き方いろいろ—くらしと年金問題を考える」		
第10回	9月9日(土)	滝田洋一編集委員
「金融商品の基礎知識」		
第11回	10月14日(土)	山崎朗教授
「人口減少時代の地域とくらし」		
第12回	11月11日(土)	佐々木信夫教授
「分権・自治・協働のまちづくり」		

会場：中央大学多摩キャンパス
時間：13：20～14：50 参加は無料。



と。でもひとつ考えたいのは、手逆天なような人で今日アジア外交が非常に重要だということ。相手を下

(学生記者 江部理恵)

池田守男資生堂会長が「精神性豊かな経営」語る 南甲倶楽部寄附講座、 充実の第3年度

池田守男・資生堂会長

写真左Ⅱが、1月19日、後

楽園キャンパスで大学院講

座の講師として、「サーバ

ントリーダーシップと企業

の社会的責任」のテーマで

講義した。これは中央大学

O Bの経済人のでつくる南甲

倶楽部

の大学院

寄附講座

「経営革

新」。経

済界を代

表するそ

うそなた

る顔ぶれ

が連続講

義するシ

リーズで、

院生向け

だが学部

生も受講できる。今年度も

後期から新講座がはじまる。

6限(18時10分～19時40

分)という時間帯にもかかわらず、約400人が入る

理工学部3号館大会議室は

ほぼ満席になった。

化粧品トップメーカー、

資生堂はユニークな経営哲

学で知られる。池田会長は

牧師を志した「クリスチャ

ン経営者」で、信条は「感

謝と奉仕」。2001年の

社長就任以来、上の者が下

の者を支える「サーバント

リーダーシップ」を導入し、

奉仕の精神を社内に徹底。

社会や消費者からの信頼獲

得に成功している。従来の

社長を頂点とした組織図を

ひっくり返し、社長が一番

下から全社を支えるという

「逆ピラミッド型組織」は、

このような社長の思いを実

現していくために発案され

た。

池田会長は、「奈良薬師

寺の高田好胤・元管主が、

今から40年も前に『物で

榮えて、心で滅ぶ』と危惧

されていたが、現代は自己

中心・モノ中心で、日本古

来の慈悲や感謝の心である

『まほろばの心』を喪失し

てしまっている。相互信頼

こそ経営の原点であり、信

頼関係を築くには他者を思

いやる心が大切である。経

済とは経世済民に由来し、

その意味するところは、世

の中を正しく導き、国民を

豊かにすることであるとい

うことを今一度思い起こす

必要がある」と述べ、精神

性豊かな経営の重要さを訴

えた。

さらに、新渡戸稲造の『武

士道』の一節「礼が要求す

ることは、悲しむ者と共に

悲しみ、喜ぶ者と共に喜ぶ

ことである」を引用し、「自

己主張だけではいけない。

企業の社会的責任の前に個

人の社会的責任を見直す必

要があるのではないかと、

社会一般の風潮への疑問も

投げかけた。

その3日前(16日)には

ライブドアに対する強制捜

査があったばかりで、事件

が急展開する激震のさ中、

受講生からは、「虚のあつ

けなさと、美」の哲学の

大きさをよけいに強く感じ

た」といった声が聞かれた。

池田会長は教育にも熱心

で、東洋英和女学院の理事

長なども務めている。

3年度目になる南甲倶楽

部の寄附講座「経営革新」

は昨年9月開講。勝俣恒久・

東京電力社長、安齋隆・セ

ブン銀行社長、足立直樹・

凸版印刷社長ら日本を代表

する経済人らを講師陣に迎

えて行われ、1月26日、鈴

木敏文・セブン&アイ・ホー

ルディングス会長CEO

(学校法人中央大学理事長)

の「経済を心理学で捉えよ」

と題した講義で全15回の講

座を終えた。

(学生記者 江部理恵Ⅱ今

春・法学部卒)